第十二巻

まおゆう

Archenemy and Hero

魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」

漫画原作

石田あきら　橙乃ままれ

キャラクター原案　水玉愛之丞・tai8

Kadokawa Comics A

まおゆう 魔王勇者

勇者様…

女騎士様…

どうして…

どうしてこんな…

まおゆう

魔王勇者

第三十八話

あなたは…

Archenemy and Hero
38th chapter

第三十八話

銃…マスケットだ

漫画原作
石田あきら 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉雹之糸(toi8)

あくまの

Archenemy and Hero 魔王勇者

——「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」——

まおゆう
魔王勇者

第十二巻

漫画 石田あきら　原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8

第三十八話 Archenemy and Hero 38th chapter 001
銃…マスケットだ
第三十九話 Archenemy and Hero 39th chapter 045
あなたはあなたの道で救えばいい
第四十話 Archenemy and Hero 40th chapter 099
やっぱり負けるのはダメだ
155
石田あきら短編作品 レベルヒーロー!

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る!」

Archenemy and Hero

第十二巻

漫画原作
石田あきら 橙乃ままれ

キャラクター原案
水玉螢之丞・toi8

コラムページ
竹之内大輔(レッカ社)
野村昌隆

まおゆう 第十一巻のあらすじ

Lectures on Archenemy and Hero
Outline of volume.11

「魔王」と「勇者」の劇的な出会いから3年。人間界の「冬越し村」から始まった二人の活動により、世界は着実にその姿を変えつつあった。「冬の国」や「鉄の国」、「氷の国」といった南部の人々の暮らしは大きく改善され、これら三国は「三国通商同盟」を締結。「聖王国」や「中央聖光教会」との対決を覚悟で経済面・精神面の双方において自立を果たすと、ついに「赤馬の国々」を

が、三国同盟に追従する動きを見せ始めた。

このように情勢が大きく動き出すなか、人間界で最大の経済団体「同盟」も行動を開始。勇者や魔王との出会いで少なからぬ影響を受けた同盟の幹部「青年商人」が中心となり、聖王国や聖光教会に牛耳られていた経済界に新たな風を巻き起こした。さらに、青年商人は「火竜公女」と「火竜大公」と塩の通商協定の遵守を経て、「火竜公女を通じて地下世界に街道を締結。火竜公女を整備するなど、活動範囲を地下世界にまで広げていくのだった。

地上での改革を進める一方、魔王は地下世界に帰還して魔族の大会議「忽鄰塔（クリルタイ）」を開催。主だった八大氏族の族長が集まる大部族会議の席上で、人間との停戦を訴えた。このさなか、魔王が刺客に襲われて重体となるアクシデントに見舞われるが、結果的

に陰謀をめぐらした「蒼魔の刻印王」を除く各族長たちは、魔王のもとで結束することになった。

その後、魔王は大部族会議に権威を預けると、療養のために地上の館へと戻った。久々に落ち着いた生活を送るなか、魔王は自らの運命を探しに出る「メイド姉」の旅立ちを見送ることになる。

ところが、その間隙をつくかのように刻印王が地上へと侵攻。「白夜の国」をまたたく間に制圧し、さらに軍を鉄の国へと進める。これをひとつの機会と捉えた勇者は、「妖精女王」をともなって冬の国に赴くと、「冬寂王」や「鉄腕王」、「氷の女王」との会談の場を設ける。そして、人間と魔族の行く末を彼らに託すと、刻印王を止めるべく戦いの場へと向かう。

しかし、その戦場に「大主教」と「王弟元帥」を擁する第三次聖鍵遠征軍が出現。無数のマスケット銃から放たれた弾丸が、呪力で動きを封じられた勇者と刻印王の身体を貫いたのだった――。

まおゆう人物紹介

Lectures on Archenemy and Hero
Character Profile

魔王

「外なる図書館」で得た知識をもとに、世界の変革を目指す魔族の王。刺客に襲われた際の傷もようやく完治し、地上に侵攻した蒼魔族に対応すべく、獣牙の一族を率いて戦場に現れた。

メイド長

魔王が幼い頃から彼女の世話をしている側近。彼女の幸せを願い、彼女の夢をかなえるため、手足となって尽力している。

メイド妹

魔王の館で働くメイド。食いしん坊が高じて料理の道に目覚め、現在は鉄の国で修行中。

メイド姉

魔王の館で働いていた少女。現在は魔王のもとを離れ、「光の精霊」の伝説を追っている。

王弟元帥

聖王国の王の弟で、人間界の英雄と目される実力者。第三次聖鍵遠征軍の指揮を執る。

東の砦将

聖鍵遠征軍の元士官。開門都市住民からなる「衛門族」の族長として、魔族会議に加わった。

百合騎士団長

大主教に仕える百合騎士団の団長。聖光教会の教えと大主教に絶対の忠誠を誓う。

大主教

「光の精霊」を崇める聖光教会の長。「聖骸」なるものを求め、第三次聖鍵遠征軍を起こした。

火竜公女

火竜大公の娘。開門都市の魔族代表をつとめ、地下世界で街道の整備を行っている。

青年商人

人間界で最大の経済団体「同盟」の幹部。情勢の変化に乗じ、経済面での改革を試みる。

勇者

魔王とともに歩む青年。地下世界では魔王の代理人「黒騎士」を名乗っていたが、魔王の暗殺未遂事件を機に、族長たちに正体を明かす。蒼魔の刻印王と交戦中に、聖鍵遠征軍から攻撃を受けた。

女騎士

元「勇者の一行」のひとり。魔王の正体を知ったうえで協力している。南部諸公国軍の総司令官として蒼魔軍と戦っている。

蒼魔の刻印王

蒼魔族の長

鬼呼の姫巫女

鬼呼族の長

紋様の長

人魔族の長

火竜大公

火竜族の長

妖精女王

妖精族の長

碧鋼大将

機怪族の長

巨人伯

巨人族の長

銀虎公

獣牙族の長

冬寂王

冬の国の若き王。鉄の国や氷の国とともに中央から独立。「南部連合」の結成を決意した。

執事

元「勇者の一行」のひとり。執事として冬寂王に仕えるかたわら、諜報活動などもこなす。

奏楽子弟

「紅の学士」の教えを受けた森歌族の少女。旅の途中で出会ったメイド姉に同行している。

土木子弟

「紅の学士」の教えを受けた鬼呼族の青年。現在、「大空洞」に橋を建設している。

やった…!?

墜ちた

おお

魔族の動きを止めたあの術はいったい…?

二五〇人の高位司祭の祈り

どのような魔族でも逃れられるものではありませんわ

ガッ？

！

ガガガ

鉛弾…か

まさか これが
魔王の言っていた…

ドゴ

黒騎士の鎧を
貫通してきた…

法術で強化されて
いるのか

ドゴ

とにかく
治療を…

…!?

!

なんだ…？
術がうまく…

死ね!!
魔族め
!!
!!

くたばれ!!
悪魔め
!!!!!!
人間の敵
!!
!!

…呪い
悪罵をもって
包囲せよ…
嘲り
拒絶するのだ

それだけで…
あれは…
能力を失う…

…かの二人

…なんとしても仕留めよ

御心のままに

光の意志のもと

草の根分けても

紅の夢に染めなさい

ドオオオン

何が起きている!?

あの敵はいったい…？

……

少尉！
当部隊歩兵すべての指揮権を委譲するでござる
ドォン…
護民卿!?
この場所を死守せよ！
騎馬隊騎乗！

この待機場所には騎兵は一〇〇しか配置されていません！
護民卿の護りが！
ドォン
数の問題ではござらぬ

騎馬隊我に続け！
後方の敵を討つ！
護民卿！

ドシーン

これは紅の師の
ぶっていた…

だが実用には
至らなかったはず…

ドオオーン

ドオオーン

なんだ
あの軍隊は

蒼魔も獣牙も
南部軍にも
攻撃をして…!?

すげえ
煙だ…

あの武器は
いったい…?

銃…
マスケットだ

黒色火薬を使い
鉛弾を撃ち出す
射撃武器だ

鉄の国の技術者に
依頼して
試作を進めていたが

けっきょく
実用には
至らなかった…

ドオン
ドオン…
ドオン

それが
なぜ
こんなに
大量に…

いた！

ドォ…ン

数が多すぎる

ここにも迫ってきて…

人間？

いや魔族か

どっちでもいい

撃てぇ!!

!!

銀虎公(ぎんここう)！

無事(ぶじ)だったか！

…でもないか

こんなに血が…

なんの
この銀虎公(ぎんここう)

三度(みたび)魔王殿(まおうどの)の
命(いのち)を守(まも)るまでは
死(し)なぬと約束(やくそく)した！

ゴホッ

蒼魔はまだしも
あの奇妙な筒は
得体が知れぬ

我が手の者も
かなりの数
やられた

ゴゴ…

!

一刻も早く
退却すべきだ

行こう！

…

爺さん！

おや
気がつきましたか

なんで
こんなとこで…

蒼魔族を
探っていまして

爺さん
ケガを！

たいしたことは
ありません

あの武器は
殺気が読みづらくて
いけませんなぁ

ゴボ…

待ってろ
今治して…

くそ
やっぱり
呪文か…

こんな傷
ぐらいで

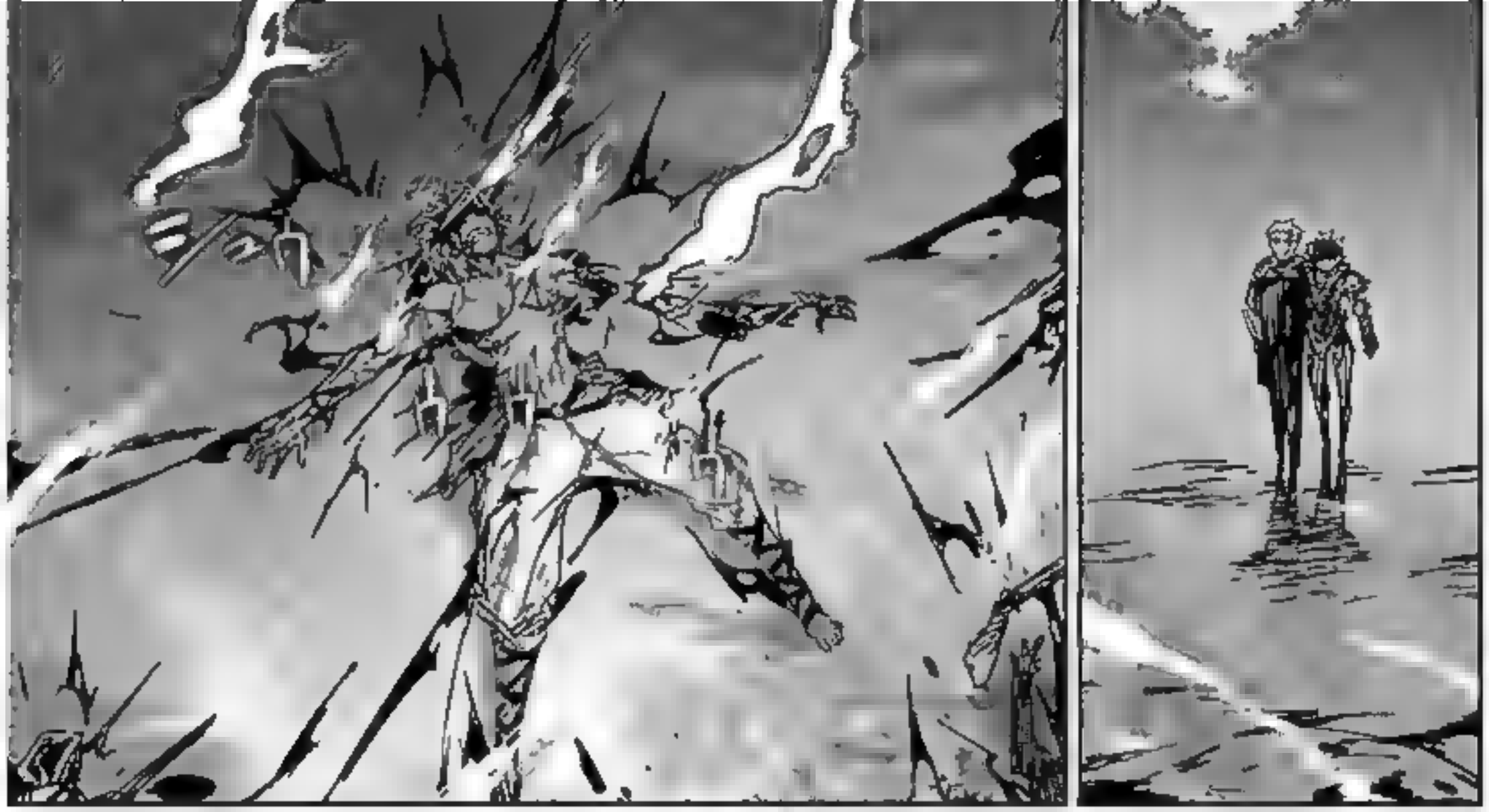
勇者
あなたは…

あの弾丸を
受けては
いけません

あの悪意も
祈りも

受けては
いけません

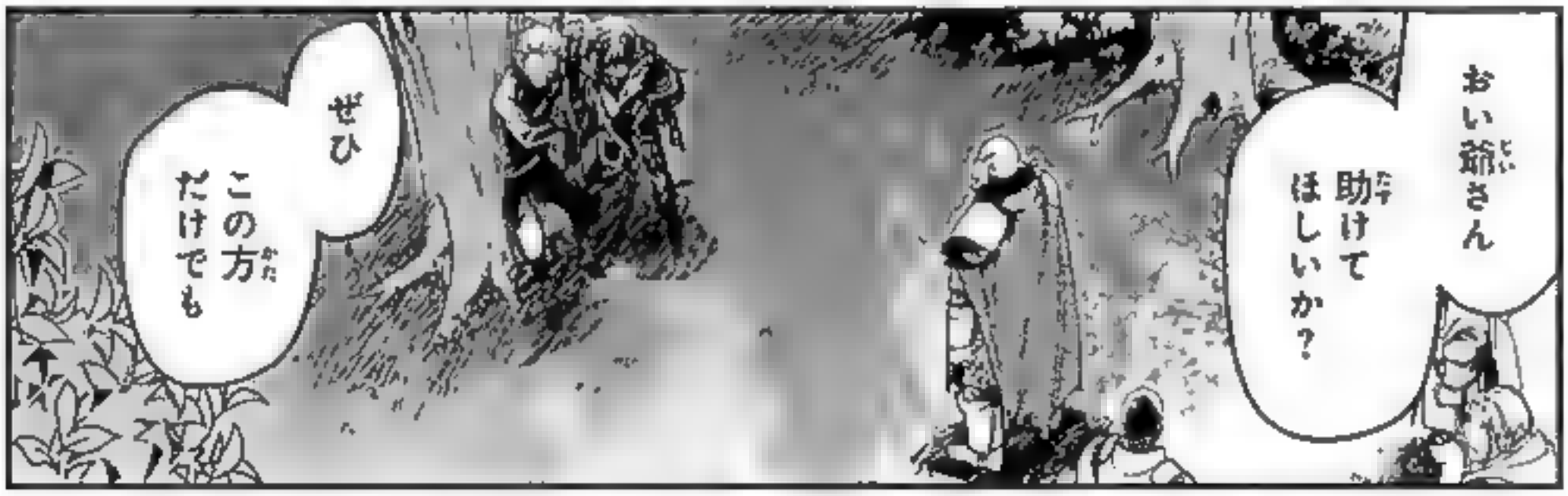
何言ってるんだか
わからねぇよ



にんげんめえ

そやつを暗殺する…
機会を狙っていましたが…
とうとう得られず…

睨むなよ
あんたの戦いは
地面から見てた
コイツが
空で戦ってた
ヤツっスか
マジか
穴だらけ
じゃねぇか


おい爺さん
助けて
ほしいか？
ぜひ
この方
だけでも

おい
とりあえず
酒ぶっかけて
包帯を巻け
シュー

爺さん
こっちは
いいんだな？
もちろん

ドッ…

許さぬ

許さぬぞお

にんげんめえ

知らねえよ

そんなもん

身の程を

知れ

隊長
さっきのヘンな筒を持った奴らと重武装兵士が
散開して森に入っています

どうも連中中央の教会と貴族らしいですね

兄ちゃんおめぇよ
誰かを助けて「ありがとう」って言われたことあるか？

？
なんだよいきなり

いいから答えろよ
何回だよ
あるよ
んなの覚えちゃいねぇよ
いっぱいだよ
…そうか

？

巽ましく…は

ねぇか

一回だけだって俺は負けちゃいねぇ

おい

この爺さんと兄ちゃんを馬に乗せろ

スカシ兄ちゃんにお前が届けろ

いいな

……！

はいオジキ

よーしお前ら！

これからあの貴族連中に突っ込んでかきまわすぞ！

おお」

よし

いくぞ！

馬鹿野郎ども！

おおお

おい
やめさせろ

あいつら
死ぬぞ

うるせぇ

オジキは
勇者だ
ヒーロー
なんだぞ？
孤児だった俺を
助けてくれた

立派な男は
自分の
死に場所は
自分で選べるんだ

ドォオン
ドドドン

何かが！
うわぁあ！
見えない
槍だ
見えない
槍なんだ！

ドオン…

騎士将軍！
敵はどうやら
聖光教会兵

その数
数万！

数万!?

未知の
武具で武装し
魔族 我々
関係なく

行き会う
すべてに攻撃を
加えております！

ドオン

…予定とは違うが
作戦を開始する

前線を
後退させよ

!!
了解です

狼煙を
三本あげろ！

ゴオオオ

使う相手が変わるか

蒼魔も教会もつき合ってもらうぞ

色狼煙三本です！

わかった

すべての堰を開けて放流せよ

!!

混合具合は？

良好

水面に浮いています

こっちは任務を果たしましたよ

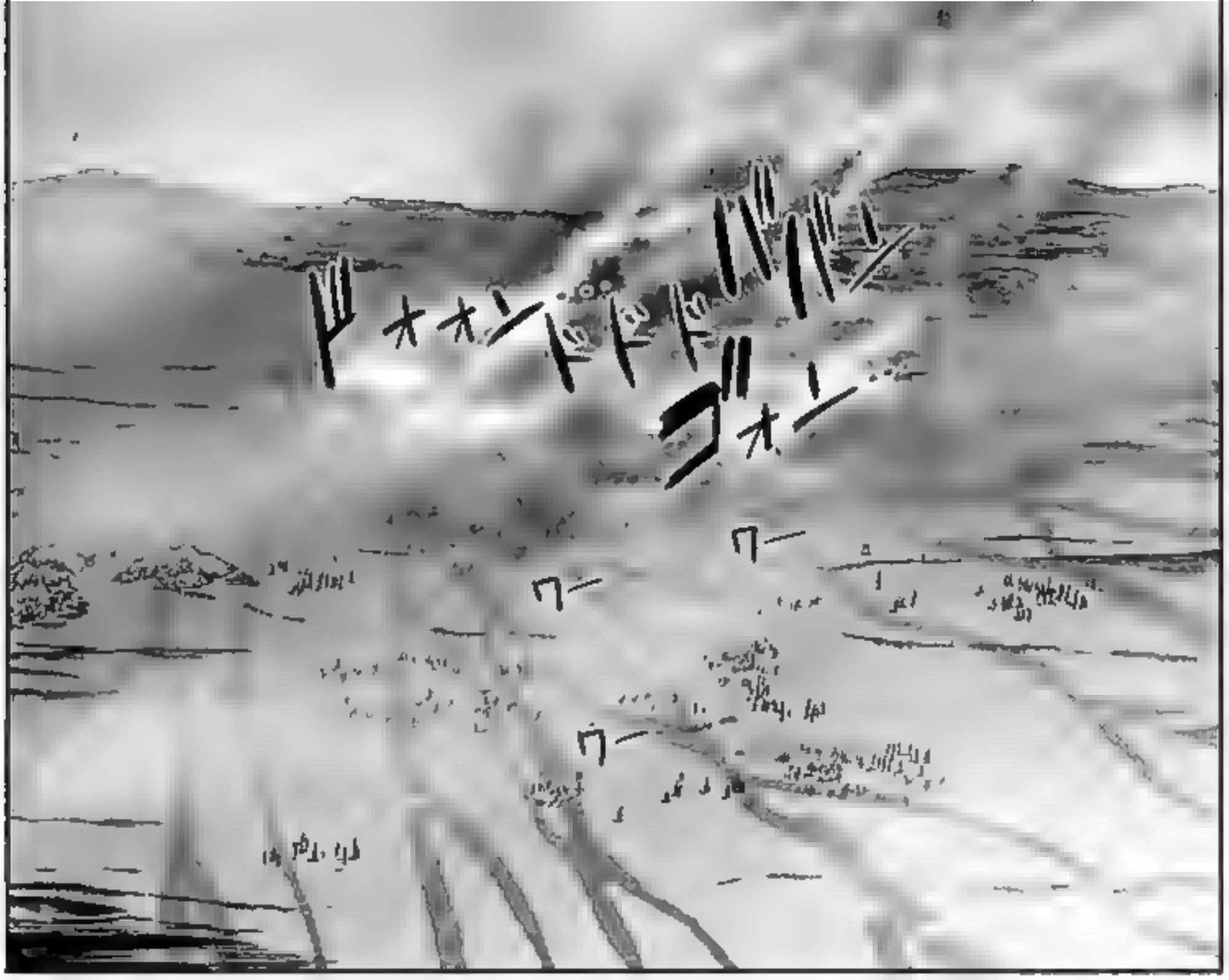
護民卿

騎士将軍

…どうかご無事で

聖上国…
聖光教会…
協約を破ったな…
人間め……！

ハッ
ドドド



水に何かが浮いている…
黒い…
…油!?

設計された
水路による
炎の迷宮だ

着魔族の布陣が
確定できなくて
広めに範囲を
取っていたけれど

それが
退却を助けて
くれることに
なるとは…

これで
我が軍の
勝利…

ですか…？

いいや

おそらく
教会軍の本隊は
まだ後方にいる

これで
倒せるのは
先遣隊でしか
ないだろう…

しかし
退却するまでの
時間稼ぎは
可能だ

急げ！
傷病者には
付き添え！

は！

ゴオオオ

……！

くそッ 人間(にんげん)ども

こんなことで…

あ

やった！ 当(あ)たっただよ 見(み)ろ…

バカ それどころじゃ…

ほう…

三か国側の罠…ですか

報告いたします！

炎は この平地 東部のほとんどを 覆っている様子！

五里四方に及んでいます

先遣部隊の被害は免れませんな

しかし どうやって…？

水路に特殊な油を流したのだろう

その「特殊」の中身までは わからぬがな

残存兵力を
退却させろ

よろしいの
ですか？

ここへは
三国通商を
殲滅しに来た
わけではない

は
そうでしたな

本隊を
白夜の国へ
向けよ

極大陸…
ゲート跡への
侵攻路を
確保するのだ

…わかりました

わかりました

わかりましたっ

…なんで
こうなるん
ですか？

…成〃り行き

成り行きで
こんなに
こんなに人が
死ぬんですか

そんなこと
許されるん
ですか！

女魔法使い様

終 第三十八話
妖…マスケットだ

Lectures on Archenemy and Hero
37th period

まおゆう講座

第三十七回

湿地での戦術について

戦いで重視されてきた地形。
険しい山や深い谷などと同じく
湿地は戦いに不利な場所として
古来より避けられてきた。

行動が制限される湿地は不測の事態が起きた際の対処も難しい。可能な限り避けるべき地形だ。

古くから戦いに不向きと認識されていた湿地

戦争において地形は重要な要素のひとつだ。紀元前5世紀頃に記された古代中国の兵法書『孫子』でも地形について触れており、古くから重視されていたことがうかがえる。

作中では、女騎士が油を用いた火攻めで敵を撃退して見せた。これも、事前に地形をよく調査していたからこその戦法なのだ。

今回のような湿地について、『孫子』では、絶壁のような谷、深い窪地、草木が密生している場所、険しい山などと並ぶ、近づくべきではない、素早く通り過ぎるべき場所として挙げている。これは、逃げ場が限定されていたり、視界が悪く待ち伏せの可能性があるといった理由で、兵を牧に動かすことができない場合は、草が生えている場所を確保し、森林がある場所にしっかりした場所に撤退できるよう備えておくということだ。

慣れない湿地での戦闘がいかにきびしいかを示す例として、古代ローマ皇帝デキウスが戦死したゴート族との戦いがある。

ゴート族の討伐に向かったデキウス帝は、3隊に分かれて迎撃するゴート族のうち2部隊を撃破した。ところが、最後の部隊が湿地の後ろに陣を布いたまま、堅く守って動かない。そこで、業を煮やしたデキウス帝は湿地に踏み込んでいった。

しかし、鎧兜で身を固めていたローマ兵たちは、水気を多く含んだ土に足を取られて思うように進軍できない。移動するだけでも大きく体力を消耗し、ついには動けなくなってしまった。

するとそこへ、満を持してゴート軍が殺到。ふんばりがきかないため、投げ槍もまともに投擲できないローマ兵を、ゴート族の戦士たちは長い槍で次々と打ち倒し、デキウス帝も命を落としたのである。

また、同じ湿地でも、植物が完全に分解しないまま堆積したものの。泥に見えるが、可燃性で一度火がつくとなかなか消えず、東南アジアでは火事が問題となっている。作中のように油を撒かれて火攻めにあえば、間違いなく逃げ場はない。

見方を変えれば、湿地は敵を罠にはめるのに絶好の場所でもある。とくに味方が不利な場合は有効だ。

見果てぬ夢

ヒュ…

我ガ主…

魔界ヲ…

地上ヲ…

制覇スル王…ヨ…

こんな…

こんなことが…

異なる二つの
存在があり

複層化された
レイヤにおける
ベクトル量が
違う場合

概念的な
レベルにおいて
速度差が生じる

まおゆう
魔王勇者
第三十九話

もし その二つが
接近しており
影響を与え合う場合

A

B

その相対的な
速度差によって
この連結はカーブを
描くことになる

これを散文的に
表現すると
時代の回転という

時代が
回転する時
その軋轢は
血を要求する

血塗られた
曲がり角を経て
時代は回転する

第三十九話 Archenemy and Hero 39th chapter

あなたはあなたの道で救えばいい

？

時に
人より多くの
血を流せる
個人が現れる

何によってか
そうなった
彼らは

数千人分
時によっては数万
数十万人分の
血を流して

回転の要求する
血量をひとりで
肩代わりする

彼ら"特異点"の
流す血によって
時代の要求した
血量は隠蔽される

まるで犠牲など
なかったかの
ように

…そうして時代と
世界は循環してゆく

…だけど

殺し合い
魅れるはずの
彼ら——

その死によって
時代が要求する血を
贖うはずだった彼ら——

彼らが手を取り合い
時代に…世界に
抗いはじめてしまった

まさか…

血を
こんなにも夥しい血を

――誰かを生かすためだからって

こんな血の海を見殺しにしていいるんですか

……それも一面の事実といえる

忘れるべきではない

貴女も同じ船に乗っている

貴女もあの血の流れに救われている

血のながれる河の船の上で

それでも…！

それでも！

ならば
貴女は
貴女の道で
救えばいい

…送ろう
…貴女には
やはり この図書館は
似合わない

おおおお

死んでしまったでござる…

たくさん

死んでしまったでござるよ…

たくさん

しゃべらないでござる…

みんなもう笑わないでござる

みんな
あの銃弾の嵐に
飛び込んで

拙者を
かばって

仲間を
かばって

あんなに
あんなに

一緒に
過ごしたのに

拙者の仲間
だったのに！

…護民卿

ちっとも
誰ってござらん

誰って
ござらんでは
ないか

——護民卿
帰りましょう

鉄の国には
まだ護民卿が
護らなければ
ならない人々が
たくさんいます

…そうで
ございましたな

ええ

ゴ
ー
ン

軍人として
恥ずかしいところを
見せたでござる

ちっとも

ねぇ
護民卿

次は
勝ちましょう

勝って
笑いましょう

ふぅ

魔王

勇者

負けちゃったよ

私も負けてしまった

よく
わからないな

うん

なんで
負けたのか

なんで勝てて
いたのか

話(はな)は聞(き)いたよ
黒色火薬(ブラックパウダー)のさ

そうそう
それだ

苦労(くろう)
させられたぞ

すまない…

私(わし)のせい
なんだ

私もダメだった

負けてしまったよ

戦っていると疑問に思う

今流れている血はなんのためなのかと

その血にふさわしい代価を我々は得られるのだろうかと

時に無益な犠牲なのではないかと疑う

なくてもよい犠牲だったんだ

少なくとも今日の数千は

私がもっと注意をもって扱っていたらなくても済んだはずの…

魔王

女騎士

…大事な話があるんだよ

なんだ？

こんな時に

朝露に濡れた
葉を踏んで
草原を歩く

空には
バラ色の朝焼け

世界はあらゆる
方向に広がって
いるけれど

自分にわかるのは
今まで歩いてきた
道だけ

どこにでも
行けるけれど

どこに行けと
命令はされていない

あの丘の
向こうに何が
あるんだろう？

そう思った
ことはないか

朝露じゃなくて
それは血かも
しれない

それでもさ

だって
俺たち
歩かない
わけには
いかないじゃん

だったら
やっぱり
見たことがない
ものが見たいよ

な―
あのさ

一緒に
行かないか？

恥ずかしい
話だけど
ひとりだと
挫けちゃいそう
なんだよ

それに
丘の上に
立った時

そこから一緒に
眺める相手が
欲しいんだ

ひとりじゃ
だめなんだ

チラ…

っうぐ

よかろう

いや
むしろ今度
置いていったら
承知しないぞ

勇者のほうが
私のモノなのだ

置いていくなら
私が放置する

留守番が
勇者だ

詩人さんも
見たんですか？

…うん
見たよ

死
数え切れない
ほどの
砂浜の
砂粒ほどの

ニィ…

ン…

静かないね

やっぱり
気付いていたか

私は森歌族
歌を伝え
語りを伝え

見聞きしては
記録する

今は遠き
アールヴの末裔

千年を千回
繰り返しても
けして忘れない
一族

…魔族なんだ

詩人さんは
詩人さんです

そう言って
くれると思った

時代が
血を求める？

誰かが
血を流さないと
人は救われない？

あたしは
行くよ

あたしの道が
決まったの

ううん
最初から
決まってたの

そんな決まりが
あったとしても

あたしは
そんなの認めない

血なんかで
贖わせない

あたしは
歌でそれを払うよ

耳を
澄ませていて

どこかの街角で
貴女が はっと
顔を上げたのなら

きっとそれは
あたしの声

あたしの歌

あたしの想い

貴女が
貴女の道を
見つけることを

あたしは
祈っている

森歌族は
ずっと貴女の
友達だよ

鉄の国
中央広場

ご苦労だった

諸君らの帰還を
この鉄腕王は
何よりも喜ぶ

蔓穂ケ原から
帰った
我が臣民よ

勇敢なる
将兵よ

この戦いで倒れた
二千余人の同胞は
帰らない

しかし なお
宣言しよう

我らは
蔓穂ヶ原の戦いに
勝利したのである！

なぜならば
侵略者は撃退され
この父祖の大地に
我らはまだ立って
いるからである

この戦いをもって
対蒼魔族戦役は
終了した

彼らの魂に
光あれ

しかし
その蔓穂ヶ原の
戦いにおいて
重大な事件が
起こった！

それは
中央国家による
連合軍

光の聖光教会による
聖鍵遠征軍の
我らに対する
無差別虐殺である

想い起こして
ほしい

我らがなんのために
血を流してきたかを

すべては
大地のため

我らが護るべき
同胞のためだ

我らが願うのは
平和と繁栄なのだ

おおおお

しかし
喜ばしき報せも
またあります

あの
恐ろしき病
夥しい数の
死者を出し

痘瘡とも疱瘡とも
いわれている
天然痘

あの病の
予防法を
我々はとうとう
発見したのです！

ほ
本当なのか？

本当だ！

おらぁ
もう接種を
受けただ！

おらの村で今年
ブツブツができた
こどもはひとりも
いないだよ！

この薬は知恵深き
学士の一族が
魔界を旅して
見つけてきました

人々の命を救う
この薬が我らに
もたらされたことは
聖霊様のお導き…
恩寵でありましょう

同じ光の精霊様を
奉じながら
中央国家の聖光教会は
火を吐き人を殺す杖を

我ら湖畔修道会は
天然痘から人々を
護る盾となる薬を

二つの教会に
違った技が
伝えられた理由を
考えてほしいのです

我ら
三か国の首脳は
平和と繁栄を求め

できうるかぎりの
施策を今後とも
行っていく
つもりだ

そして
諸兄らには

もっとも
重大な報せを
告げなければ
ならぬ

我ら
三国通商同盟は
本日をもって
解散する

我が同盟の理想を
受け入れてくれる
新たな友邦が
現れたのだ！

おおお

湖の国
梢の国
自由通商の
独立都市七つが
我ら同盟の
理念に共鳴し
湖の国
赤馬の国
葦の国
梢の国
ゆくゆくは
農奴解放を含めた
目標を持つ
共同体として
一歩を踏み出す
こととなった
葦の国
赤馬の国及び
我らはもはや
三か国ではない
この南の果ての地で
孤独に喘ぎながらも
耐え続けてきた時は
終わりを告げた
この世界の
なかに根を張り
共に明日を
目指すために
新しい船出を
行う時が
きたのだ！

私たちは
我らが南部の
魂である大地への
深い愛と

同胞への共感

寛容と克己
努力

そして何よりも
自由と独立を
愛する民の
ひとりとして

ここに
「南部連合」の
樹立を宣言する

…南部連合？

そうだ 南部連合だ！

もう異端なんかじゃない

おいらたちにも仲間ができるんだ！

南部連合！

我らが南部連合ばんざい！

予定どおり白夜の国を奪還できましたな

白夜の国 王宮

これでゲート…

魔界への足がかりができたというわけです

蒼魔軍は
蔓穂ヶ原で
主力が全滅した…

ゆえに王都の
守りも手薄だった
ところまでは
予定どおりだが

白夜の民草まで
居ないというのは
予想外だったな

蒼魔軍は
民草まで皆殺しに
したのか？

それについて
生き残りの蒼魔を
尋問した所
人間の軍が奴隷…

人間を解放
していった後だと
いうことでした

先客が居たと
いうわけか

白夜軍の
生き残り
ですかね？

しかし
それよりも
問題は…

ええ

蒼魔が
持ってきたはずの
硝石の数が

半分に満たない
ことについては
調査中です

湖の国 首都
「同盟」作戦本部

委員！

いつお戻りに？

たった今です

開門都市は
任せてきました

大丈夫と
その方は？
ああ
ここまで運んでくれたんです
とびきりの食事と甘い物を用意してください
ハイ
さて
…状況報告を
南部諸王国と中央の遠征軍のあいだに軍事衝突が発生した模様です
…中央の新型武器が使用されたとのこと
パラパラ…
新型兵器？
…マスケット
ご存知なのですか？
…見てた
もしゃもしゃ
!?
戦争を…ですか？
…そう
より詳しい状況をお願いしていいですかね？
ニくん

聖鍵軍

蒼魔軍

南部軍

蔓穂ヶ原に
布陣した
南部諸王国軍は

白夜の国を発した
蒼魔軍と衝突
半日にわたり
膠着するも

これを
背後から
聖鍵遠征軍が
強襲

両軍を
圧倒した

この戦闘において
蒼魔族約二万は
ほぼ完全に壊滅

南部諸王国軍は
兵三五〇〇
あまりを

聖鍵遠征軍は
六〇〇〇名
程度を失う

ただし
これらを損耗率の
観点から見ると

南部諸王国軍は
参加した兵の三〇%
全軍の一二%

聖鍵遠征軍においては
会戦参加兵員の一五%
全軍の三%程度に
すぎないと推測される

南部軍

聖鍵軍

聖鍵遠征軍の
現在規模は

訓練度を
度外視するならば
二〇数万に達する

南部諸王国は
滅亡寸前ですか…

そうとも
言いきれない

理由は
二つある

まず
ひとつ目は

聖鍵遠征軍は
南部諸王国
攻略よりも

魔界侵攻を
優先事項として
決定した点

ゲート

もう一点は？

開戦直後
南部三国
通商同盟は
その名称を破棄

あらたに
湖の国
聾の国

梢の国
赤馬の国

中央、聖王国

南部連合

および自由通商の
独立都市七つを加え
「南部連合」の
樹立を宣言した

…なるほど
そういうことですか

…二〇万の
兵力動員は

確かにすばらしい
攻撃力を教会勢力に
もたらしましたが

それだけの兵員を
動員するとなれば

多くの国は
地元の防衛力が
低下する

このタイミングで
「南部連合」の成立です

今 聖鍵遠征軍が
南部連合を
攻撃した場合

南部連合のなかで
中央に近い国が

防衛軍不在の中央国家群を
蹂躙するかもしれない

民衆に自由という
武器を与えたゆえ

民衆の支持を
失うような政策を
とれない南部連合

民衆に
マスケットという
武器を与えたゆえ

民衆の怒りが自分に
向いたら破滅する
中央国家群…

どちらも難しい
舵取りになって
きたようです

…ですが
そこにこそ
商人の勝機がある

プレイヤーが多数
参加した乱戦こそが
商人の活躍できる
戦場です

…中央の
秘密製鉄工房の
所在地は突き止め
ましたか？

はい

銅の国です
合計三か所

三か所に
酒場と娼館の
出店の準備を

耳目を
忍び込ませます

了解です

聖鍵遠征軍に
配置されている
マスケットの量を
算定してください

マスケットは
機械です
故障もすれば
予備部品も
必要のはず

そして弾薬
二〇万の兵を
養う食料…

これらの供給元
輸送の流れを
掴みます

!

新兵器の威力と
それを運用する
二〇万という兵の数…

戦闘能力に長けた
蒼魔軍 南部諸王国軍
それらを一蹴
できるほど巨大です

その巨大さは
武器ですが
弱点でもある

巨体を動かすには
巨大な胃袋を
必要とするものです

鉄鉱石は相当量の
備蓄が聖王国にあると
推測されています

しかし
製鉄を
行うためには

鉄鉱石の二倍から
三倍の量の木炭を
必要とします

聖王国周辺で
もっとも木炭を
多く算出する
梢の国は

南部連合に参入
したとのこと

であれば
木炭の量を
コントロール
していくのは

さほど困難な
話ではない

白夜王国へと
移動した二〇万人

彼ら全員を
食べさせるには
大量の食料が
必要です

この食料を
海上輸送

自由貿易都市の港から
白夜王国の港へと運び
その差益を得ます

とりかかって
ください

了解！

はい

承知

…終わった？

ええ
なんとか

貴女の
助けがなければ
手遅れになった
かもしれない

何かお礼を…

きゃるる
るる

すぐに
食事を用意
させましょう

……

なぜ手を貸して
いただけたんですか？

…こっちの都合

あの子への
贈り物

図書館族に
ならなかった娘

ただの
人間——

手の者——
貴族子弟という
宮廷の道化者からの
報告です

聖鍵遠征軍は
その後
軍を再編
演習を
繰り返しながら
ふくれあがって
おります

再度の侵攻
——その
可能性も
あるか

あるいは
海へ出るという
可能性も
ありますが

民は南部連合結成の
祝祭の影響もあって
活気と落ち着きを
取り戻しているが

実際には
戦の傷を
癒やすのにも
時間がかかる

聖鍵遠征軍と我らとでは
規模も戦力も
まるでちがう

まともにぶつかって
勝てる相手ではない

報せによれば
今回の遠征軍は

大主教 自らが
号を発して結成
されたという

このような途上で
解散となれば
大主教

ひいては
聖光教会の
威信に関わる

成果を上げずには
すますことのできぬ
遠征軍だ

我らには
時間が必要だ

戦の痛手を
癒やすためには

——そのためにも

我らは
あの問題について
判断を下さねば
なりません

蒼魔族を追ってやって来たという魔族の討伐軍

彼らとの対話…

おまかせしましたぞ

鉄腕王

こちらにどうぞ

ふむ…

…

おい
飲み物をお持ちしろ

いや
お気になさらず

拙者たちも軍人でござるから礼儀作法にこだわりはないでござるよ

そう言っていただけると助かるな

俺は
東の賢将
もとは第二回
聖鍵遠征軍
参加の傭兵で

今では開門都市
自治委員会を
とりまとめ
魔界
九氏族のひとつ
衛門族の長を
やっている

今回の蒼魔
討伐作戦では
左府将軍を
仰せつかった

我の名は
銀虎

魔界の
九氏族のひとつ
獣牙一族の長

今回の戦いでは
右府将軍を
務めるものだ

拙者は
鉄の国の護民卿を
拝命している

軍人子弟と
申す者で
ござる

先だっての
葦穂ケ原の戦いでは
副指令官を務めさせて
いただいていたでござる

こちらに
いらっしゃるのが
鉄腕王

この鉄の国の
王にして
南部連合
首脳でござる

本日は
南部連合の代表として
この会見に参加して
いるでござるよ

まずは
この場を借りて
お礼を申し上げる

蒼魔族は
我ら魔族にとっても
魔王殿に弓引く逆賊
その討伐のために
軍の通行をご許可
いただいた
我らは恩義を
感じている

魔族の
勢力争い
いわば内輪もめの
トバッチリを人間界に
かけたことに関しても
氏族は謝意を
もっている

……

鉄腕王
……意地張っている
場合じゃないで
ござるってば

…今回の戦いでは
獣牙一族も大きな
犠牲を出したと
聞くが？

確かに
人間の乱入軍の持つ
得体のしれない武器に
傷つき倒れた者もいる

しかし
いずれも
獣牙の勇者たち
雄々しく
散ったのだ

人間風情に
破れたのが
くやしいか

戦いに
敗れたのは
口惜しきことと
ではあるが
恥ずべき
ではない

恥ずべき戦いは
すなわち
信義を裏切る
戦いだ

蒼魔の奴らの
ような

…遠く離れた異郷で散り むなしくはないのか

我らは戦士の一族だ

どこであれ戦で散るのなら

誉れの腕に抱かれたのだと思っている

後ほどいくつかの物資と酒を届けさせよう

帰るぞ

せっかく来ていただいたんだこの機会に詰めておくべきことも…

そうでござるよ

せめてもう少し話をー

まだ魔族と
急に握手をする
気にはなれん

だが我ら
鉄の国は
武の国だ
武には武の
礼節がある

互いに骰を
失ったのだ
それを送るには
今少しの時間と
酒がいるだろう

お気遣い
感謝いたす

今度 会うときは
もうちょっと
わだかまりなく
酒が飲める
そんな時代に
なるとよいな

では
行くぞ

は

獣牙の戦士よ
槍を掲げて
お送りしろ

戦士の
一族の魂に
慰めあれ

オオオオオオオオ

付近をくまなく
捜索しましたが…

黒騎士の
行方は？

いずこかに
落ち延びたものかと

あの
飛び込んできた
薄汚い傭兵さえ
いなければ

必ずや捕縛
しましたのに…

しぶとさだけは
害虫並でしたわね

猊下は？

奥の間で瞑想中で
あらせられますわ

ビビビビ…

ビビビビビビビビビビ

ビビビビビビ

我が手に来たか…

ビビビビ…

待ちかねたぞ

この輝き…

そこに満ちる雄々しき魔力

瑞々しき不滅の輝き…

…刻印の二つの眼球よ

終 第三十九話 あなたはあなたの道で救えばいい

まおゆう
魔王勇者
第四十話

…街道の

整備は

…順調だ

第四十話 Archenemy and Hero 40th chapter

やっぱり負けるのはダメだ

まずは
物資面だ

特に衣料品と
食料が不足
している

蒼魔族はこれらの
品に関しては かなり
大量に持って行って
しまったようだ

食料に関しては
我が都市の備蓄から
当面必要な分は
移送しましたが

きらに 精神面でも
非常に問題がある

もともと蒼魔族は
厳格な身分制をもつ
階級社会だった

その身分制度の
上位陣は軍人が
占めていたと
いってもよい

その上位階級者が
突然すべて
いなくなって
しまったのだ

何をする
気力もなく
呆然として
しまっている

自分たちが
「遺棄された」
という現実を
受け入れることが
できないらしい

何かよい知恵はないだろうか？

おそらく何かかき混ぜるような手段が必要じゃろうな

かき…ませろ？

厳格な身分制度とは思考の硬直化を生むのだろう

効率は多少落ちるだろうがたとえば鉱山労働者に農作業をやらせるであるとかその逆であるとか

人材をかきまわして見分を広げさせるのがきっかけとなるだろう

うむ物資の追加援助とともにそれらの政策を進めるとしよう

ところで地上に向かった魔王様たちの様子はどうなんです？

それについては
まおー様から
言付けを預かって
おります

まず
地上における
第一の目標
蒼魔族の討伐に
関してはこれを
成し遂げられました

そして
その争いの際
共闘する
ことになった

南部連合とは
停戦条約を含む
合意へ向かいつつ
あります

しかし
中央諸国と
聖光教会は
どうやら魔界へ
三度目の侵攻を
企んでいる様子

十分な
注意が必要
である…

そうおっしゃって
おられました

中央諸国？

…聖光教会？

地上の大陸で
もっとも勢力のある
教会と国家群です

彼らは白夜の国を
蒼魔族から奪い返し
自分たちの領土として
しまったようです

白夜の国

白夜の国は
極大陸へ航海する
場合の玄関口に
なり得ます

軍の規模は
約二〇万

さらに増えて
いますが…

その全軍をもって
魔界へ侵攻すると
いうのが

彼らの
目的であろう
とのことです

ゲート

……人間が
……来るのか

攻めてくる
人間と停戦条約を
結ぶとは

ガガーン

魔王様も
解せぬことを

人間の世界も
一枚岩ではない
そういう
ことであろう

我らと蒼魔族の
ようなものよ

まおー様たちが
停戦条約を
結ぼうとしている

南部連合に
含まれている
国々は

数こそ七つと
少ないですが

なかなかに強力な
国々です

もしこの停戦協定が
なかったとしたら

魔界に攻め込んでくる
軍勢は三〇万になった
かもしれませんね

いや
それ以上で
あろう

南部連合とやらが
魔族と停戦した
からには

聖鍵遠征軍とやらは
南部連合の動きにも
注意を払わねば
ならぬのが道理だ

銀虎公
そして
衛門の族長

何より
魔王殿と
妖精女王は

戦うことなく
一〇万の敵を討ったに
等しい働きを
されたと思うぞ

だが…
それでも…
二〇万…

戦いになる
というのは
確実なのか？

やはり
ここは戦争の
対策を練らざるを
得ないでしょう

聖鍵遠征軍は
マスケットなる
新しい武器を
備えておりました

その威力は
すさまじく
蒼魔軍は全滅

獣牙軍も
かなりの痛手を
負っておりました

ざわっ…

なんと
それほどの

おお…

戦の備えは
必要であろうな

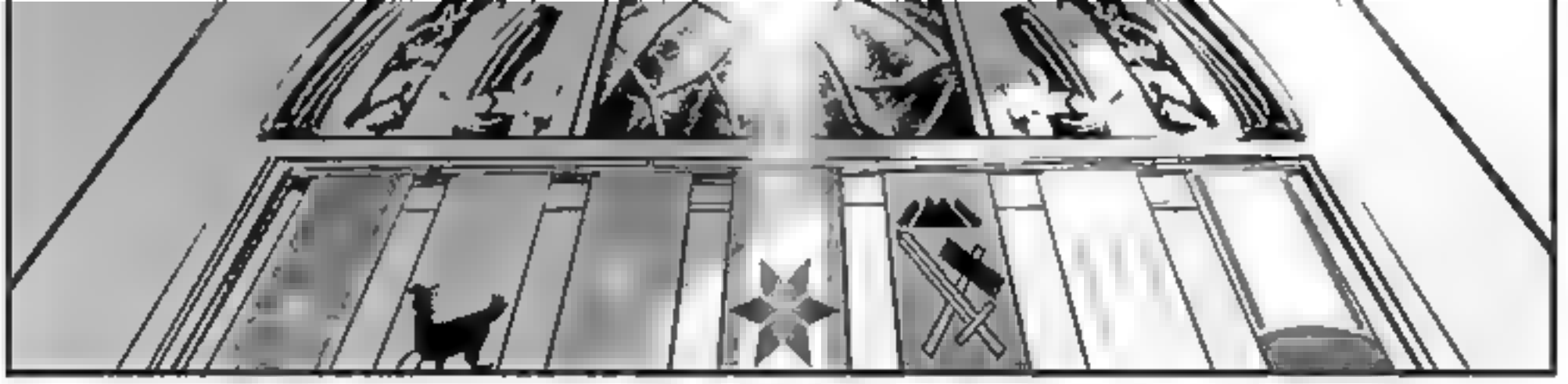
うむ

監視の強化と
軍備を整えながら
雑務を進めると
しよう

おのおの方も
気づいたことが
あれば

すぐにでも
知らせて
ほしく思う

ガタ



とりあえず
停戦

および平和条約の
締結に向けての
一歩を印すことが
できましたな

何度か確認
していますが
念を押しますと

この条約は
南部連合として
行うものであり

連合加盟国の
合意と署名は
受けていますが

中央諸国の
それは受けて
いない

その
理解して
いただけるよう…

ええ
理解して
います

あとは
各国・各氏族の
署名など

形式的な処置を
残すのみですね

この一歩は
偉大な一歩です

デステス

そうなれば
よろしいですね

ところで
鉄の国の
氏族連合軍の件は
いかがしますか？

蒼魔族が
あのように
瓦解した以上

魔界へと引き上げ
させるべきかと
考えますが

連合のお考えは
いかがでしょう？

こちらとしても
異存はありません

では
近々報せを
発たせましょう

ハーイ

さて
これからも
忙しいですね

課題は山積み
ですねぇ

中央諸国は
白夜王国を占領し
新生白夜直轄領を
宣言しました

教会勢力の運営地
ということですね

これにより
彼らは極大陸への
足がかりを得た
ことになる

報告によれば
彼らは魔界へと
侵攻し

「聖骸」
なるものを
狙っているとか

その話は聞いて
おりますが

「聖骸」などと
いうものは
私も知りません

氏族会議でも
学者に調べさせて
いるはずですが

現在までのところ
それがなんであるかは
わかっていないのです

あるいは
それは実在
しないのかも
しれませんな

ただ単純に
領土拡張の
欲求を強くもった
中央の諸国家が

地上から見て
新たな可能性に
満ちているように
見える魔界に

発展の余地を
見いだし侵略する

その口実としての
捏造かもしれません

その可能性は
悲しいですが
あるのでしょうね

同時に彼らは「開門都市」の攻略も予定しているようです

開門都市を…

確かにゲートを…

今では大空洞ですか？

それをくぐり抜けた先で魔王の城へと向かうのであれば

あの都市は理想的な補給位置にあるのですが

だからといって他に目標とできる場所がまったくないわけでもなく

意図はよくわかりませんね

いい景色ですね

ええ
あれが極光島です

あれが先の戦争で魔族の手に渡ったという…

あの島は…

あの島と同じく
開門都市も

先の戦争で
人間の手に
渡りました

あの当時は
我ら魔界の氏族は
互いに不信感を
抱き合い

連携面では
問題が多く
ありました

今回は
氏族会議の
結束も固くなり

以前のような
ことはないと
考えています

決して戦いを
望みはしませんが…

私たち妖精族は
身体も大きくは
ありませんし

魔力はともかく
戦闘能力には
劣ります

ですから
戦争は是が非でも
避けたいのですが

そうですね

戦争にならずに
すむのが一番です

しかし

同時に備え
なくしての平和も
またあり得ない
でしょう

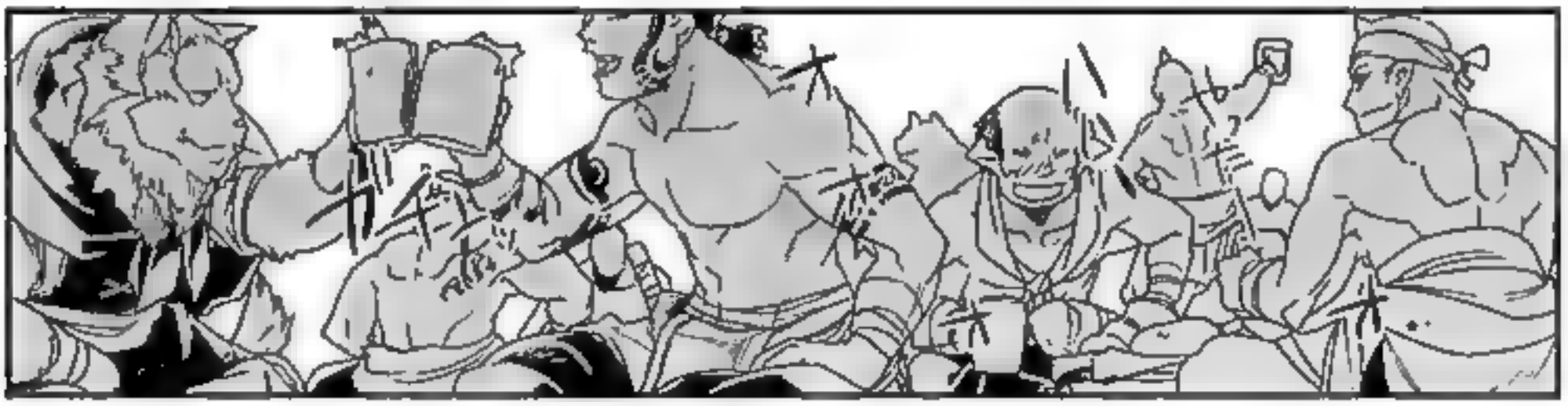
教会も聖王国も
ここまで
諸国家や貴族を
巻き込んで
しまった以上

一戦も交えずに
帰るというわけには
いかないでしょう

大氏族会議の皆様方

また魔界を統べるという魔王にくれぐれもよろしくお伝えください

はい



やってますね

商人さん

おかげさまです

皆さん嬉しそうだ

おお

ええ

完成祝いですからね！

当初の予定よりも
石の橋を
ひとつ増やし

できるかぎりの
場所を安全に通行
できるようにした
つもりです

荷物のみを運ぶ
リフトも
まもなく完成です

重力と斥力の間まで
「落とす」ことで
素早く効率よく
運搬が可能です

これは素晴らしい仕事です

この橋は歴史に残るものになります

…いやその

なんだか照れますね

本来であればこの大空洞にもうひとつの計画どおり

八年かけた石造りの立派な街道もお願いしたいのですが

…その前に別件が

それはもしかして…

城壁ですか

開門都市を
はじめて
訪れたとき

この都市は
歴戦なんだと
わかりました

地上と地下が
つながった 今

大空洞に近い
あの街は戦火に
もっとも近い
場所です

開門都市

ゲート

今回の依頼は
「同盟」からでは
ありません

満足に賃金を
支払えないかも
しれない

引き受け
ましょう

あっさ

いいんですか？

——そんなに
ためらいなく

ええ

俺は この橋を
渡って帰ってくる

すべての人を
迎えなきゃ
いけない

橋ができても
彼女を待つ場所が
なくちゃね

それに
城壁でしょう

師匠に授かった
技術の成果を
見せる仕事として
ふさわしいじゃ
ないですか

おひげ
もっさもっさ

こら

あまりご迷惑を
掛けてはいかんで
ござるよ

キャッキャッ

ガーー!!

元気な娘だ

ハッハッ

ようまた来たのか

あんたも飽きないな！

お邪魔しているでござるよ

魔界と魔族の人々の話は

どれだけ聞いても飽きることはないでござる

見ず知らずの世界の話が聞けるなんて

そうそうあることじゃないでござるよ

おや？

…こっちのお嬢さんは？

こざるーー♪

これは拙者の妹分でござる

差し入れ？

みんなにサシイレに来ました！

前に森のとこで会ったよな

猪鬼族だわ♪

なんとぉ

何事(なにごと)か？

なんの さわぎだ

ドドド

もの怖じしないのだな

娘だというのに

がる。

拙者の妹分は特別でござるよ

もうそろそろご出立だと聞いたでござる

戦は終わった長居は無用だ

偵察部隊と合流の上明後日には出立する

ガー…

そうでござるか…

チャ

ならば
それまでにぜひ
一献なりと
さしあげないと

帰すに
帰せないで
ござる

人間界の酒も
けっして悪くないで
ござるよ

これは
鉄の国で取れた
強い酒でござる

雅な華やかさは
ないでござるが
この大地の酒で
ござる

……大地か

魔界には
月がないと
聞いたでござる

ああ
あの
白いものか

魔界の夜の
優しい輝きの
碧太陽とは違うが
月というものも
良い肴になりそうだ

ドゴォ

遠い国から
やって来た
武人と酌み交わす
酒でござる

今宵は
月が沈むまで
飲むでござるよ

灰背王様を
お連れしました

うむ

……

どうだ？

あの軍を
率いてみて

悪くは
ありません
ね

灰青王

面白みは
あります

面白み
…か

現在までの
貴族軍での戦争は

あまりにも貴族軍の
連合体であるという
事実に縛られてきた

今回の戦で
その弱点については
気がつかれましたよ

正直に言えば
戦争の覚悟の
ない農奴は

やはり
しょせん
農奴ですよ

臆病で
身勝手だ

しかし
そこに面白みの
ようなものがある

貴族の
私軍とは違い
良くも悪くも
素直ですな

マスケットは
どうだ？

現状では
強力な弩

しかし

欠点も多い
そういった
感じです

現在の問題点は…

まずは攻撃力の集中です

これは戦場の広がりに対して攻撃力を一点に集中させるということでもあるし

時間の広がりに対して

ある一瞬に攻撃力を集中させるということでもあるわけですが

これがなっていない

次の問題点は防御能力です

マスケットは一回撃ったらおしまい

撃った直後から再装填までの間著しい防御力の低下がある

これについては閣下がかねてから提案なさっていたとおり

槍兵との連携運用で解決がつきます

他には？

貴族と農奴兵との
軋轢は想定以上です

農奴中心の
マスケット兵には

自分たちこそが
軍の主力であるという
自負があり

貴族やその騎士たちには
農奴兵を侮る傾向がある

これについては
軍規を改める
必要があるかと

よかろう

今回の指揮で
マスケットの射程や
その攻撃タイミング
クセなどは掴みました

次回からの前線指揮は
より確実なものにして
ご覧にいれましょう

それでこそ
霧の国の
若き英雄王だ

世が世なら
勇者と呼ばれた
かもしれぬな

ご冗談を

本当の勇者は
昔 見たことが
あります

あれは…
バケモノですね

彼は 今
どこに？

さて
な

…魔王
塩とって

ほい

モキュ
モキュ
モキュ

なあ勇者
ん？
今日の食事は？
茹で馬鈴薯
昨日は？
茹で馬鈴薯
一昨日は？
茹で馬鈴薯

なんでこんなことになっているのだ！
だって仕方ないじゃん！
メイド長は開門都市会議への使者で突発出張中だし
メイド妹は鉄の国で料理修行中だし

…負けた
勇者
私はもうダメだ
魔界は滅びた

そして
二千年の
時が流れた

早いよ

そして
二千年の
時が流れた

こんなご飯では
身体にも脳にも
力が入らぬ！

ホカ
ホカ

うまいよ！

私は魔王
なんだぞ！

うまくても
毎食ではあきるのだ!!

…はぁ
仕方ないなぁ

開門都市

わい

冷たいエール
二杯ね
おいーっす
これはこれは
黒騎士の旦那じゃ
ありやせんか

どうした？
ぼやんとして
こんなふうに
にぎやかで
楽しそうなのは…
はじめてで

あれらは
何を話して
いるのだろう？

いろんな
ことだよ

ほら

あそこにいる
獣牙の男は森から
毛皮を売りに
きたんだ

彼はよい年頃だから
そろそろ独り立ちの
時期なんだろう

嬉しそうだ

いい値段で
売れたんだろうな

彼はこれで儲けを
もって集落に帰れば
一人前だ

結婚も認められる
ようになる

私はそうやって
説明されている
獣牙の儀式などは
知識として知っている

だけど
見たのは
はじめてだ

…そっか

おまたせ
しましたー！

（ﾆｭｰﾝ）

まるで伝説の
英雄と英雄の
戦いのようだ

みんな
楽しそうだ
顔を真っ赤に
火照らせて
笑っている
酒場だし
そんなもんだよ

なんだか
すごいなぁ…
胸の内側が思いで
あふれそうな気分だ

黒騎士殿と
お連れさん
うちの料理は
どうだい？
いい食いっぷりだね

…うん
本当に
おいしい

ありがとう

葡萄酒を持ってこい！

この二人に一杯ずつ注ぐんだ！

はーい

この方は魔王様直属の黒騎士殿なんだぞ！

我が店のもっとも栄誉ある常連様だ

黒騎士殿が!?

こんなところでお目にかかれるとは！

魔王様は大丈夫なんですけえ？

なんでも忽翔塔でお倒れになったと聞きましたが

おかげさまで私たちは商いを続けさせていただいてますよ！

魔王様には感謝してるんです

…よし

え

あ…

あっと

聞いてくれ
諸君！
だw
おおおo
俺は魔王様
直属の騎士
魔界の剣
黒騎士だ！

確かに
兇賊の一矢に
魔王は倒れたが
心配には
およばぬ
今やその傷も
すっかり癒えて
今日も魔王城で
この魔界すべての
平和と繁栄に心を
くだいている！

この魔王直轄地
開門都市を見ろ！
人間と魔族が
互いに杯を干し
ケンカをしながらも
仲良くやっている

オヤジ
全員に好きなものを注いでくれ！

オヤジ

最初の一杯は俺が持つぜ！
さぁみんな杯を掲げろ！

魔王様に乾杯だ！
あの方はケンカは弱いが民を気にかけることでは並ぶものがないぞ！
その一杯が魔王の力となることを願って杯を干してくれ！

乾杯！

乾杯！
魔王様のために！
乾杯！
魔王様万歳だ！
我らが魔王に栄えあれ！
この地に永久の平安あれ

大丈夫か？

そろそろ転移できるけど

ダメだ

今転移したら終わってしまう

魔王の威厳も乙女のイメージも勇者との関係も終わりだ

そこまで…

うえっぷ…

…いい風だ

やっぱり負けるのはダメだ

…うん

私はこれから
計画の練り直しだ

マスケットを敵に
与えてしまったのは
私のミスだ

本来であれば
私は責任を
とるために

もっと強い
武器を南部連合に
提供しなければ
いけないと思う

…でも
それをすれば

死者の数は
もっともっと
増えてしまうだろう

でも
私のそんな
ためらい…

火薬を広めて
よいのか悪いのか
というためらいが

マスケットを
敵に量産させる
結果を招いて
しまったんだな

なんの
ことはない

勇者に
偉そうに講釈して
おきながら

一番 覚悟ができて
いなかったのが
私だったというわけだ

何度でも
思い知る

やはり私は
ひとりじゃ
何もできない

最初から女騎士と
話し合うべき
だったのだ

マスケットについて
相談していれば

もっと犠牲を
減らせたかもしれない

吹っ切れた

私もこの件から
逃げまわるのは
やめよう

さあ
帰ったら
すべてやり直しだ

…あの丘の向こうを
見るために

ああ

勇者にも
うんと働いて
もらうからな

まかせて
おけよ

ここに来るまで
どれくらい
かかりそうだ？

たぶん
一日二日は
平気だ

ヤバイじゃ
ないか！

逃げようぜ

しかし
貴族の旦那から
預かったアレがな…

ただのクズ石
じゃねぇの？

硝石って
いうらしい

この硝石というのは
敵の火を噴く筒の
秘密に関係があるんだ

貴族の旦那が
隠した理由も
それだろう

だからといって
軍隊相手には
できねぇよ！

やあ
見張(みは)り
ご苦労(くろう)さん

わあっ

旦那(だんな)

あんちゃん！

どうやら
中央(ちゅうおう)の軍(ぐん)が
嗅(か)ぎつけた

これだけの荷物(にもつ)は
運(はこ)んで逃(に)げるのは
無理(むり)そうだぜ

どうする？

それは大変(たいへん)だ

さて…

？

どうします？

二代目(だいめ)の

二代目？

？

ああ

この部隊もいつまでも隊長なしでは困ると思ってね

新隊長だよ

終 第四十話
やっぱり負けるのはダメだ

第三十八回

製鉄技術について

さまざまな用途に使われる鉄は
人間にとって欠かせない存在。
その鉄をつくりだす製鉄技術は
需要の高まりとともに進歩した。

製鉄で消費する木炭は膨大な量。高炉が登場した当初は鉄1トンに対し5トンの木炭が必要だったという。

必要に迫られて発展した製鉄技術

人間は、これまで数多くの金属を有効活用してきた。そのなかで、もっとも身近な金属といえばやはり鉄だろう。

金属全般にいえることだが、含まれる不純物が少ない（純度が高い）ものほど融点（溶けはじめる温度）が高く、柔らかいという性質がある。鉄の場合、炭素を含む量が多い順に銑鉄（鋳鉄）、鋼、錬鉄（軟鉄）と、異なる呼び名があり、銑鉄は鍋、鋼は工業用鋼材、錬鉄はクギや針金といったように、用途も分かれている。

初期の製鉄方法は、山腹のような風通しのよい場所に高さ1メートル、幅数十センチほどの小さなかまどを設置し、鉄鉱石と木炭を入れるというシンプルなものだ。鉄鉱石の主成分は酸化鉄なので、木炭を入れて加熱すれば酸化鉄の酸素がより結びつきやすい炭素と結合する。つまり化学反応で鉄を取り出すのだ。

一定時間熱したら、ハンマーで叩いて不純物を取り除く。不純物を含んでいるほど融点は低く、また半分ほど溶けていれば十分なので、小さなかまどでもつくれるというわけだ。こうして出来上がった鉄は銑鉄。これを再度加熱、精錬して鋼にしつつ道具の形を整えるのが、鍛冶屋の仕事になる。ふいごが発明されたのちは人力で風を送るようになったが、基本的な仕組みは変わらない。

さて、技術の普及とともに鉄の需要も高まったが、従来の方法では数キログラムの鉄しか取り出せない。そこで、一度により多くの鉄をつくるための高炉と、水車による送風システムが誕生した。高炉とは背が高いかまどのこと。鉄鉱石と木炭を何層も重ねて入れることができ、炉内の温度も上昇して液化した鉄を扱えるようになった。

しかし、一度につくる鉄の量が増えれば、それだけ木炭の消費も激しくなる。とくにヨーロッパでは伐採が進んで森林資源の枯渇が問題になったため、豊富にあった石炭が用いられるようになった。

すると、今度は石炭に含まれる硫黄が鉄をもろくするということで、石炭を蒸し焼きにしたコークスが発明されたり、新たな炉が考案されていった。こうして問題が発生するたびに新たな発明が登場。改良が重ねられて今日に至るのだ。

中央国は製鉄とマスケット製造を同じ場所で行っていた模様。新たに専用の施設をつくったのだろう。

レベルヒーロー！

15年ほど前に石田あきらが描いた「まおゆう」ものマンガです。
話をまったく考えず、電話で打ち合わせをしていたとき とっさに出た
タイトルからできた話です。
白玉と勇者の性別がまおゆうと逆ですね。
ずっと昔から白玉・勇者のテーマが好きだったと自分でも再確認した思いです。

石田あきら

15年の時を経て甦る―― 石田あきら作・幻の短編を再収録。
「まおゆう」とは一味違った、可憐な勇者の冒険をご堪能ください!

レベルヒーロー! LEVEL HERO!

PRESENTED BY
Ishida Akira

石田あきら

…ひとりぼっちは寂しいから
誰かと遊びたいなぁ
やっぱりお母さんに
会いたいなぁ!!

誰だ!?

……

…なんか物音がした…

…気のせいかな…

ベッドの下

エナ・ラー(11歳)
物盾　レベル:9
HP:31　MP:35

…ちょっとだけ
寂しそうな声だったし…

…もしかしたら
誰かと遊びたいのかな…

でもそんなときは
どうしたらいいんだろう…

だいたい人の価値をレベルで求めるほうがどうかしてるのよ
レベル重視社会に私は反対する——!!
……

どっかにぱーっと経験値が入るところがないかなぁ…
リィンちゃん…
そんなうまい話は…
あるで!

この先のダンジョンにたいして強うないけど経験値が高いモンスターがおるて話や
どや行ってみるか?
……
でまあ…
来たんだけどね…
誰に…

でもさあ…

ザコしかいないね
このダンジョン

そうだね

ラクショーだし

ウソついたのね
あのマント野郎…

殺す!

まあまあ

強さはちょうどいい
ダンジョンだと思うよ?

あっちょうどいいって
おかねがね

そうだけどさ…

私はもっとパーッと
ハデに稼ぎたいの!

じだんだ
じだんだ

まあ奥まで行こう…

これは…

いかにもって
カンジの
扉ね…

ここにおいしい敵が
いるのよ!

けーけんちー!!

これはこれは可愛いお客さんだ…
ようこそ…私は魔王ゴーム ここの主だ…

魔王って…ラスボス!?

さてキミらには悪いが…
おいたがすぎたバツだ…

死んでもらう!!

まさか こんなところで
ラスボスなんて…

エナの回復呪文(かいふくじゅもん)も
追(お)いつかないよ…

こんなことなら…
もっとレベルを上(あ)げて
おくんだった…

だめだ…
勝(か)てっこない…

さて そろそろ
トドメだな…

死(し)ね!!

ちょい待(ま)ち

おじょーちゃん！
ザコ退治あんがとな!!

死にくされ
このニセ魔王が!!

バカ…な…

貴様は…

わしを差し置いて
魔王を名乗るなんざ
300年早いんや！

マント野郎が
魔王…？

本物？

デス(10歳)
魔王　レベル:12
HP:3021　MP:211

そゆことや勇者はん！

ここで戦ってもええけど…

ぴくぴく

お互いエンディングをむかえるにはレベルが低すぎる…

そうやろ？

次会うときはラストバトルや!!

それまでにたっぷりレベル上げとき！

さー！今日もレベルを上げるわよ！

あ♪

リィンはレベルが上がった！

チャッチャッチャッ♪

クスクス…

なにしてんの！あんな奴に負けてらんないんだから！

LEVEL HERO! END

角川コミックス・エース
まおゆう魔王勇者「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」(12)

漫画：石田あきら
原作：橙乃ままれ
キャラクター原案：水玉螢之丞・toi8

©Akira ISHIDA 2014
©2011 Touno Mamare

2014年10月25日 発行

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
角川コミックス・エース『まおゆう魔王勇者「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」(12)』
2014年10月25日初版発行

発行者　堀内大示
発行所　株式会社KADOKAWA
http://www.kadokawa.co.jp/

〒102-8177　東京都千代田区富士見2-13-3
03-3238-8745(営業)
編集　角川書店
〒102-8078　東京都千代田区富士見1-8-19
03-3238-8719(編集部)

装幀・デザイン：沼利光（D式Graphics）

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
また、本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
本作品購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず
本作品を第三者に譲渡することはできません。
本作品を示すサムネイルなどのイメージ画像は、再ダウンロード時に
予告なく変更される場合があります。
ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。
この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは関係がございません。

BOOK☆WALKER